

## 過疎地域における家具を用いた空間転用による地域活性化

政策・メディア研究科 修士課程2年

藤咲 潤

81524898

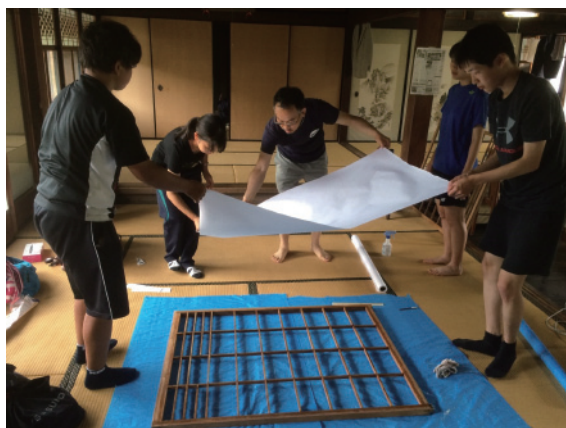
### □研究概要

近年、既存の土木構造物や都市空間といった既存環境の転用が重要視されている。その背景として人口減少に伴う空き家率増加によるスクラップビルドから建築ストック活用への促進、そして既存環境の転用による非日常的感覚を付加価値とした商業的利用の普及などがある。過疎地域においてもこの既存環境の転用を手段として活性化を目指す。

本研究では滋賀県長浜市田根地区を対象とする。地元の高校生と家具の設計製作ワークショップを実施し、製作した家具を用いて既存環境の転用を図る。そして住民を巻き込んだ空間転用の実践によって、そこから得た既存環境に対する新しい視点を共通意識として構築し、住民による自発的な空間活用による地域活性化を促すこと目的とする。

### □実施内容1 現地でのワークショップ

地元の高校生と家具と建具の設計製作ワークショップを実施し、製作した家具と建具を用いて既存環境の転用を図る。田根地区の一番山奥にある古民家の窓から見える日本の原風景を切り取る蓐戸と書院を、地元の谷口杉と古民家の古材を再利用して製作した。



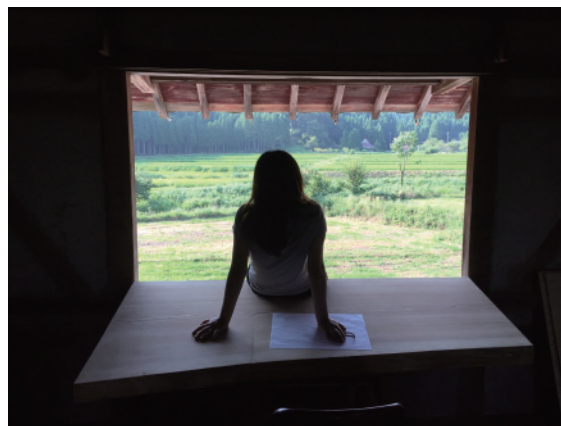
既存の障子の修復



地元の谷口杉を使った書院機の製作



高校生自ら作業を行う



出来上がった蓐戸と書院机

## □実施内容2 ツールの設計と製作

地元住民や高校生などだれでも操作可能な建築モジュールとしての家具の設計および製作を行った。身近な家具を模様替えのように組み替えることによって空間を作り上げることが可能であり、これによって住民や高校生などいろんな人たちが、既存の空間に対して自ら必要な空間を獲得することができる。



CNCルーターを用いた切削作業



切り出した部材を木工用ボンドで接合



全6種類の家具を製作



家具どうしを様々な角度や向きで接続が可能



ワークショップによる家具モジュールの実用実験



自由な空間構成を実現可能